

任天堂に対策されやすい仕組み

結局はイタチごっこになると思われますが、ゲームチップのIDをチェックするだけで Gateway 3DSをブロックすることは可能なため、任天堂はファームウェアアップデートで Gateway 3DSをブロックしてくるでしょう。 Gateway 3DS Teamがアップデートごとに対応するかどうかは定かではありません。彼らは売るだけ売ったらトズラするかもしれません。

レビュー用サンプル配布予定 Gateway 3DS

Teamは、レビュー用サンプルを配布する約束をしているようです。もし [Gateway 3DS](#) がFakeならその時点で一蹴されますので3DSのバックアップゲームが起動する”マジコン”としては本物なのでしょう。

一方で、動画で起動を証明したタイトル(『ルイージマシオン2』、『Resident Evil: Revelations』(日本版はバイオハザード リベレーションズ)、『スーパーマリオ 3Dランド』)以外のゲームも起動するとはGateway 3DS Teamは一言も言っていません。

ただし、そのレビュー用サンプルは発売日の数日前に渡す可能性が高そうです。本当に売る気があればきちんとレビューをしてもらった上で指摘された不具合などを修正、改良し販売するはずで、任天堂の法的措置を予測して、一気に売って儲けたら一気にトズラして逃げる気かもしれません。

正規カードリッジに見せかけているだけなのでリージョン制限はそのまま動画で起動しているのは3タイトルは、英語表記ですのですべて海外版です。ではそのゲームは全て起動するかというと、実は不確かなところがあります。

Gateway 3DSは単純に3DSに本物のゲームカードリッジだと見せかけることで起動しているだけのため、3DSの持っている各種制限はそのまま存在するそうです。つまり、リージョン制限があるということです。

そのため日本版の『ルイージマシオン2』、『バイオハザード リベレーションズ』、『スーパーマリオ 3Dランド』が日本の3DSで起動するかは不明です。

リージョン制限を解除するにはシステムへアクセスするための3DSモードのexploitが必要ですが、動画では単なるカードリッジタイプの”マジコン”を入れているだけです。exploitを利用している訳ではなく正規カードリッジだと認識させているに過ぎません。そのためセーブデータを改造するチートもできません。非署名コードも実行できませんので、開発環境が仮に揃っていたとしてもHomebrewは絶対に起動しません。

それでも6月半ば以降には販売開始するらしい なかり残念な仕様のGateway 3DSですが、発売はどうも目前のようです。

詳細は近々公開予定で、販売店リストも公開済なので価格や送料は販売店に問い合わせた方がいいとの回答があったそうです。

本来は日本への輸入も日本での販売も禁止されている”マジコン”ですが、なんと2店舗の公式販売店が既に公式サイトのResellersに掲載されています。